

## 平成17年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

件名：「東北大学生のための情報探索の基礎知識」の制作刊行活動とそれを活用した全学教育科目支援

応募区分：図書館活動における功績

応募者：東北大学附属図書館情報探索マニュアル作成ワーキンググループ

選定理由：

東北大学附属図書館においては、学生の情報リテラシーを向上させるための教材として、平成15年度に「東北大学生のための情報探索の基礎知識2003」を、平成16年度には「同基本編2004」、「同自然科学編2004」を書籍として刊行し、学内に無料配布している。

これらの教材は、編集上の工夫や内容の改訂、サブジェクトにまで立ち入った深化が認められる。例えば自然科学編では化学式まで使用した演習問題とその解答なども確認でき、有用な情報探索ツールとして認められる。また、冊子体、電子版としての刊行のみならず、オープンソースとして他大学にも提供していることは先駆的な事例として注目すべきものがある。

教材の活用においては、教材を用いた図書館職員向け講習会を開催しており、図書館職員全体の能力及び専門性向上を図っていると認められる。

また、教材の刊行を機に、図書館職員が支援する全学教育科目「図書館を活用した情報探索・レポート作成術」を実現したことは、情報リテラシー教育の必要性、重要性を学内に認識させたものである。

応募作品は、これからの図書館の情報リテラシー教育のモデルとなる活動を目指しており、図書館職員の専門性向上、図書館の地位向上、図書館の授業支援、他大学図書館の支援等にわたる一連の活動は、高く評価できる。

東北大学の応募作品について具体的には下記の点から、選考基準第4第1項第3号に該当するものとして、協会賞に相応しいと思慮する。

### 記

- (1) 教材は、図書館職員自身が企画・編集・制作しており、職員の専門性向上において今後の図書館活動のモデルとなる事例であること。
- (2) 教材は、電子体及び冊子体の情報探索ツールを幅広く取り上げてその内容・利用方法を解説したものであり、単なるマニュアルにとどまらず、読みやすさや通読性にも配慮した有用なものであること。
- (3) 教材をオープンソースとして学外に公開・提供したことにより、大学図書館全体の情報リテラシー教育活動に波及効果をもたらしていること。
- (4) 教材を活用した図書館職員向け講習会を積極的に開催し、図書館職員全体のスキルアップを図っていること。
- (5) 情報リテラシー教育の必要性、重要性を学内の構成員全体に再認識させるとともに、図書館ならびに図書館職員の地位向上に貢献していること。